

# 社会政策学会 Newsletter

No.4 (通号No.34) 2003.4.18

学会本部 東京大学経済学部 森建資気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>  
Tel 03-5841-5510 Fax 03-5841-5521 E-mail [tmori@e.u-tokyo.ac.jp](mailto:tmori@e.u-tokyo.ac.jp)  
事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング  
Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail [world@med.email.ne.jp](mailto:world@med.email.ne.jp)

## <目次>

1. 第106回大会のお知らせ
2. 総会の召集
3. 第106回大会プログラム
4. 名誉会員の推薦
5. 第107回大会案内・報告者募集
6. 幹事会記録
7. 専門部会報告
8. 地域部会報告
9. 部会活動費について
10. 新入会員
11. 物故者、退会者リスト
12. 本部よりのお知らせ

## 1. 第106回大会のお知らせ

第106回大会が、来る5月17日(土)・18日(日)に、東京の一橋大学で開催されます。ふるってご参加ください。今回の共通論題のテーマは「新しい社会政策の構想 20世紀的前提を問う」とし、21世紀の社会政策のありかたについて積極的な議論を行っていきたいと思います。また、テーマ別分科会は11、自由論題については6つの部会にわかれ、18本の報告を予定しています。とくに今回は、学会の国際交流推進の一環として、「IMF危機後の韓国社会政策」という分科会を設定しました。

## 第1日 5月17日(土)プログラム

### 9:30~11:30 テーマ別分科会(1)

<第1分科会> 中国の社会保障 失業保険と医療保険制度改革を中心として 【1318教室】

座長 埋橋 孝文(日本女子大学)

「中国の失業問題とその展望」 沙 銀華

(ニッセイ基礎研究所・中国人民大学労働人事学院)

「新しい基本医療保険制度の形成とその実態」

于 洋(早稲田大学大学院生)

「中国の『基本医療保険制度』の展開と地域格差-上海市と青島市を例に-」

楊 開宇(大阪市立大学大学院生)

<第2分科会> 社会政策 の範疇概念 【1301教室】

座長 小笠原 浩一(埼玉大学・東北福祉大学)

「『ひとがひとであること』と公的扶助の哲学的基礎」

後藤 玲子(立命館大学)

「『Socially Perceived Necessities』と公的扶助理論の課題」

なお参加予定のはがきは4月24日(木)までの投函締め切りとなっております。

また開催校の実務軽減のために前納振込(4月25日まで)にぜひご協力ください。割引が適用されます。

共通論題 新しい社会政策の構想 20世紀的前提を問う  
座長: 武川 正吾(東京大学)・木本 喜美子(一橋大学)

## <趣旨>

社会政策は一定の目的を実現しようとする営みであり、何らかの価値や規範を前提として初めて成立するが、これまでの社会政策学会の共通論題では、規範的な理論を正面から取り上げることが少なかった。他方、哲学や倫理学の分野では、抽象的に価値や規範について論じるだけでなく、現実とのつながりを求める動きも出てきている。これらを背景に、第106回大会では、新しい社会政策の構想を共通論題として取り上げる。

## 2. 総会の召集

2003年5月17日(土)一橋大学で開催される社会政策学会第106回大会で会員総会を開催します。会員の方はご出席ください。議題として予定しているのは、2002年度活動報告 2002年度決算報告、2003年度活動方針、選挙管理委員の委嘱、社会政策学会学会賞選考結果報告、その他です。

## 3. 第106回大会プログラム

阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)

「『主訴』『能力』および機会保障型社会政策」

小笠原 浩一(埼玉大学・東北福祉大学)

<第3分科会>(ジェンダー部会) ジェンダー・ケア労働・セクシュアリティ 【1201教室】

座長 室住 眞麻子(帝塚山学院大学)

「ケアとジェンダー」 広井 良典(千葉大学)

「高齢者介護倫理のパラダイム転換とケア労働の変化」

春日 キスヨ(安田女子大学)

「デンマークのケアサポート制度にみるジェンダー的平等」

大塚 陽子(立命館大学)

<第4分科会> 政策分析・政策評価 福祉・保健医療領域を中心に 【1302教室】

座長 平岡 公一(お茶の水女子大学)

「保健医療福祉サービスにおけるニュー・パブリック・マネジメント論の英国型モデル」

長澤 紀美子(新潟清陵大学)

「高齢者介護・医療のウェルフェアミックス」

河野 真(兵庫大学)

「介護サービスの利用を規定する要因について 個票データによる実証分析」

塚原 康博(明治大学短期大学)

<第5分科会>(産業労働部会) 変容する労働運動 イギリス、フランス 【1303 教室】

座長 大塚 忠(関西大学)

コーディネーター 白井 邦彦(青山学院大学)

「ブレア政権下のイギリスにおける労働組合の組織化戦略」

松尾 孝一(青山学院大学)

「フランスの労働組合と労使関係の変化」

松村 文人(名古屋市立大学)

<第6分科会>(少子高齢部会) 介護保険は地域福祉か 【1304 教室】

座長 高田 一夫(一橋大学)

「医師の立場から介護保険を考える」

新田 國夫(医師)

「地域福祉から介護保険を考える」

水谷詩帆(全国社会福祉協議会)

「行政から介護保険を考える」 上原公子(国立市長)

11:30~13:00 昼休み(幹事会・各種委員会)

13:30~15:00 テーマ別分科会(2)、自由論題(1)

<第7分科会> 医療政策におけるニュー・パブリック・マネジメントの動向 【1302 教室】

座長 三重野 卓(山梨大学)

「ニュージーランドにおける動向」

藤澤 由和(国立保健科学院)

「アメリカにおける動向」 田村 誠(国際医療福祉大学)

「イギリスにおける動向」 近藤 克則(日本福祉大学)

<第8分科会> 社会政策の政治学 福祉国家変容と政治対抗 【1201 教室】

座長 宮本太郎(立命館大学)

「福祉国家への政治学的接近」 新川 敏光(京都大学)

「新社会民主主義の多様な道 福祉国家の転換」

住沢 博紀(日本女子大学)

「新しい右翼と福祉ショービニズム 北欧福祉国家の揺らぎ」

宮本 太郎(北海道大学)

<第9分科会>(労働史部会) 家内労働・小規模生産の可能性 - 歴史的視点による再評価 - 【1303 教室】

座長 小野塚 知二(東京大学)

「1910年代における日本在来綿織物業の工場労働」

佐々木 淳(龍谷大学)

「フランス絹リボン工業における小規模生産と労働」

人見 諭典(筑波大学)

<自由論題・第1会場> 地域通貨とコミュニティ

座長 内山 哲朗(専修大学) 【1301 教室】

「中国のNPOと福祉サービス提供 都市部のコミュニティ開発を中心に」

王 文亮(九州看護福祉大学)

「地域通貨の可能性 アンペイド・ワーク評価からジェンダー平等政策へ」

斎藤 悦子(岐阜経済大学)

「地域通貨の使用動機および持続性について 経済学的観点からのアプローチ」

石田 智宏(早稲田大学大学院生)

<自由論題・第2会場> 社会保険 【1318 教室】

座長 本間 照光(青山学院大学)

「後発工業国における社会保険の導入と普及 韓国の医療保険制度を中心に」

李 蓮花(早稲田大学大学院生)

「フランスにおける医療保険の財源政策」

松本 由美(早稲田大学大学院生)

「介護保険制度の施行過程 都市型自治体の事例研究を通して」

吉田 三知子(英国国立シェフィールド大学社会学部博士課程研究生)

<自由論題・第3会場> 福祉政策 【1304 教室】

座長 玉井 金五(大阪市立大学)

「社会政策としての社会福祉政策を考える 国家の役割から」

安田 三江子(花園大学)

「社会政策としての社会福祉政策を考える 地方自治体の役割から」

渡邊(福富) 恵美子

(京都市みづ身体障害者福祉会館)

「新自由主義と福祉政策 韓国の『生産的福祉』からの一考察」

金 成垣(東京大学大学院生)

15:15~17:15 テーマ別分科会(3)、自由論題(2)

<第10分科会>(社会保障部会) 雇用保険制度の行方 失業時の所得保障のあり方をめぐって 【1305 教室】

座長 大須 眞治(中央大学)

「フランスの失業者への生活保障」

都留 民子(広島女子大学)

「ドイツにおける失業対策の動向」

布川 日佐史(静岡大学)

<第11分科会> IMF危機後の韓国社会政策

座長 伊藤 セツ(昭和女子大学) 【1304 教室】

「金大中政府の“生産的福祉” その歴史的意味と残された課題」

李 惠炅(Lee, Hye Kyung)(延世大学)

「金大中政権の女性政策」

鄭鎮星(Chung, Chin Sung)(ソウル大学)

<自由論題・第4会場> 公衆衛生と社会福祉

座長 岩田 正美(日本女子大学) 【1301 教室】

「英国における近年の公衆衛生政策の展開 イングランドを中心に」

松田 亮三(立命館大学)

「貧困への公的対応とジェンダー」

川原 恵子(文京学院大学)

「五泣百笑の奉行・川路聖謨の愛民思想」

久田 俊夫(名古屋経済大学短期大学部)

<自由論題・第5会場> ヨーロッパの社会政策

座長 乗杉 澄夫(和歌山大学) 【1302 教室】

「ドイツ福祉国家再編をめぐる論議の動向」

森 周子(一橋大学大学院生)

「ウィリアム=ベヴァリッジの社会福祉理論と我が国の社会保障」

柏野 健三(東京福祉大学)

「職業訓練政策と技能形成・能力開発 イギリス NVQs を題材に」

長尾 博暢(京都大学大学院生)

<自由論題・第6会場> 労働 【1303 教室】

座長 二村 一夫(法政大学)

「戦前の日本の女性たちは家のために働いていたのか？」

明治40年代の大阪府泉南地方の事例を中心に」

荻山 正浩(千葉大学)

「ワーカーズ・コレクティブによる高齢者介護労働の経済的自立の可能性」

小林 治子(龍谷大学大学院生)

「労働と教育の交錯 大学院修士課程における社会人教

育のその後」 平尾 智隆(立命館大学大学院生)

9:30~12:00 午前の部

17:30~18:30 会員総会 【東2号館3階2301教室】

18:40~20:40 懇親会 【東プラザ(生協)2階】

「卓越・正義・租税-社会政策の《編み直し》のために-」  
川本 隆史(東北大学)  
「ベーシックインカム構想と新しい社会政策の可能性」  
小沢 修司(京都府立大学)  
「労働の未来論 ドイツからの提言」  
田中 洋子(筑波大学)

## 第2日 5月18日(日)プログラム

### 共通論題

新しい社会政策の構想 20世紀的前提を問う  
【東2号館3階2301教室】

座長 武川 正吾(東京大学)・木本 喜美子(一橋大学)

12:00~13:00 昼休み(幹事会・各種委員会)

13:00~16:30 午後の部

「『男性稼ぎ主』型から脱却できるか 社会政策のジェンダー主流化」  
大沢 真理(東京大学)  
総括討論

## 4. 名誉会員の推薦

例年5月の総会で名誉会員を推挙しております。会員の皆様で名誉会員にふさわしいと思われる方がおられましたら本部までご連絡ください。

## 5. 第107回大会案内 / 自由論題・テーマ別分科会募集

社会政策学会第107回大会は、2003年10月4日(土)と5日(日)に、下関市立大学で開催されます。共通論題のテーマは、「社会政策学と賃金問題」です。

報告者は、橋元秀一(國學院大)「社会政策学会と賃金問題」(仮)、木下武男(昭和女子大)「属人給から仕事給へ」(仮)、赤堀正成(労働科学研究所)「木下賃金論批判」(仮)、佐藤博樹(東大社研)「短時間正社員の賃金像」(仮)の4名(敬称略;報告タイトルは、秋季大会企画委員会の案で仮題)です。企画委員会としては、「これまでの賃金論とこれからの賃金体制」について研究者としてどう考えるか論じていただきたいと考えています。座長は、下山房雄(下関市大) 森ます美(昭和女子大)のお二人にお願いしました。

2001年の第103回大会から、秋季大会でも自由論題の報告が可能になりました。ふるってご応募ください。なお、今回から、秋季大会でもテーマ別分科会が可能となりました。なお企画委員会は以下のテーマでの分科会を企画しています。(A)「草の根の運動と社会政策」、(B)「最低賃金制度の国際比較」の2つです。このテーマでの報告希望者を募集いたします。

自由論題の希望者は、論題、所属(詳細に)、氏名、連絡先(住所、電話、Fax、メール・アドレス)を明記の上、必ず200字程度のアブストラクトをつけて下さい。その際、参考のため、次の分野別コード番号を付してください。

1. 労使関係・労働経済、
2. 社会保障・社会福祉、
3. 労働史・労働運動史、
4. ジェンダー・女性、
5. 生活・家族、
6. その他( )

テーマ別分科会の希望者は、分科会のテーマ、座長・コーディネーターの名前と連絡先(住所、電話、Fax、メール・アドレス)、報告者名を明記して、テーマ設定の趣旨(200字程度)、各報告者の200字程度のアブストラクトを送付してください。

企画委員会が企画したテーマ別分科会に応募したい方は、連絡先(上記と同様)と報告の趣旨を400字程度にまとめて送付して下さい。

いずれも、申し込みの締め切りは、2003年6月12日(木)です。秋季大会企画委員長の上掛利博(京都府立大学)までお申し込み下さい。なお、申し込みは、なるべくメールにてお願いします。

上掛利博  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1  
京都府立大学 福祉社会学部  
Tel & Fax: 075-703-5320  
mail: kamikake@kpu.ac.jp (上掛利博記)

## 6. 幹事会記録(第5回~8回)

### 【第5回幹事会】

名称: 社会政策学会2002年~2004年期第5回幹事会

日時: 2002年10月18日14時~16時

場所: 中京大学本館第1会議室

出席: 五十嵐、上掛、熊沢、佐口、猿田、下山、関口、武川、富田、中川、橋元、久本、深沢、松丸、森建資、鷲谷

欠席: 埋橋、岩田、大沢、木村、木本、伍賀、野村、森ます美、伊藤

### <議題>

1. 前回議事録確認 前回議事録を一応承諾し、正式にはメールで送付されたものを確認することにした。

2. 新入会員承認 3名の新入会員を承認した。

### 3. 報告、審議事項

#### (1) 第105回大会について

猿田幹事より葉書による出欠の報告があった。また会員外の報告者のフルペーパーの印刷に関して問題が提起され、今後は報告者が印刷できないと申し出たときは事務局（本部、大会企画委員会）の責任で作成することにした。

#### (2) 学会誌への学術振興会補助金申請について

松丸編集委員長より学術振興会の説明会の報告があった。優れた学術研究を行っており、国際的な情報発信を行っていることが評価されるとのことであった。議論の結果本年11月の申請を承認した。

#### (3) 学会誌への広告掲載について

学会誌への広告掲載について議論を行い10号から広告掲載を認めることにした。

#### (4) 学会誌8号の訂正について

深澤副編集委員長より8号で編集協力として室住会員と吉村会員の名前を載せたが、居神会員と乗杉会員の間違いであったとの報告がなされた。

#### (5) 秋季大会企画委員会報告

上掛秋季大会企画委員長より秋季大会でのテーマ別分科会のあり方について報告がなされた。第103回大会より自由論題が個別報告とテーマ別報告の二つに分かれている状態について議論した結果、秋季大会の構成は、これまでの 共通論題、書評分科会、自由論題の3本立てから、今後は 共通論題、書評分科会、自由論題、テーマ別分科会の4本立てにすることを決めた。

なお、第107回大会は10月4日、5日に下関市立大学で開催されるとの報告がなされた。

#### (6) 春季大会企画委員会報告

武川春季大会企画委員長から第106回大会は第1日目に分科会、自由論題、第2日目に共通論題を行いたいとの提案がなされ了承した。また第106回大会共通論題の第1回打ち合わせを10月14日に開き、今後12月、3月に第2回、第3回の、さらに直前に第4回の打ち合わせを行う予定であるとの報告がなされた。また自由論題、テーマ別分科会の公募をすでに行っており、地域通貨に関する分科会については報告者の公募を行っている旨の報告があった。

#### 【第6回幹事会】

名称：社会政策学会2002年～2004年期第6回幹事会

日時：2002年10月19日12時15分～13時

場所：中京大学センタービル8A

出席：五十嵐、埋橋、大沢、伍賀、木村、佐口、下山、関口、森建資、鷺谷

欠席：岩田、上掛、木本、熊沢、猿田、武川、富田、中川、野村、橋元、久本、深沢、松丸、森ます美、伊藤

#### < 議題 >

報告、審議事項

(1) 部会活動費について

部会の活動をめぐって議論した。活動に関してガイドラインを作るかどうかを主に議論した。

#### 【第7回幹事会】

名称：社会政策学会2002年～2004年期第7回幹事会

日時：2002年10月20日12時15分～13時

場所：中京大学センタービル8A

出席：五十嵐、埋橋、木村、熊沢、佐口、下山、関口、富田、森建資、鷺谷、伊藤

欠席：岩田、大沢、上掛、木本、伍賀、猿田、武川、中川、野村、橋元、久本、深沢、松丸、森ます美

#### < 議題 >

報告、審議事項

(1) レフリー 規程について

学会誌の刊行助成で複数レフリー制が要求されていることに関連して、レフリー規程について議論を行い、松丸編集委員長の原案にたいして若干の字句の修正を行った。

(2) 学会誌への学術振興会補助金申請について

松丸編集委員長より学術振興会の説明会の報告があった。優れた学術研究を行っており、国際的な情報発信を行っていることが評価されるとのことであった。議論の結果本年11月の申請を承認した。

(3) 若手研究者の就職支援について

公募情報をホームページに掲載するように会員に呼びかけることにした。若手研究者の業績一覧の作成などの提案もなされ、今後もこの問題を協議することにした。

(4) 次回日程

第8回幹事会を2003年1月25日（土）13時から開催することにした。

#### 【第8回幹事会】

名称：社会政策学会2002年～2004年期第8回幹事会

日時：2003年1月25日13時～17時

場所：東京大学大学院経済学研究科第2共同研究室

出席：五十嵐、岩田、大沢、上掛、佐口、関口、武川、中川、橋元、松丸、森建資、森ます美、鷺谷

欠席：埋橋、木村、木本、熊沢、伍賀、猿田、下山、富田、久本、野村、深澤、伊藤

#### < 議題 >

1. 前回議事録確認

2. 新入会員承認 14名の新入会員を承認した。

3. 報告、審議事項

(1) ニュースレターの発行

ニュースレター第3号が12月に発行されたとの報告があった。

(2) 第105回大会報告

上掛秋季大会企画委員長より第105回大会について報告があった。大会の経験を踏まえ、自由論題報告を事後的にインターネットの学会ホームページから閲覧できないかとの問題提起がなされ、関口幹事が検討し、次回幹事会で議論することになった。また他の報告についても

議論した結果、学会誌の編集のあり方もあるので共通論題報告はホームページに掲載しないことにした。

### (3) 編集委員会報告

松丸編集委員長より学会誌の刊行に対して科学研究費刊行助成を申請するという方針のもとで刊行助成申請を行ったとの報告があった。また委員長より、助成を得るためには、国際的情報発信(英文比率の向上)、レフリー規程の充実といった課題があるとの指摘がなされた。これにもとづき議論した結果、第二次審査で複数審査する本来的なレフリー制度を作る必要があることで意見の一致を見た。春季大会までに新たなレフリー規程案を作る予定である。なお英文サマリーの校閲に対する謝礼の基準を検討することにした。

また学会誌第9号の編集について報告があり、タイトルを「雇用関係の変貌」とした。

### (4) 春季大会企画委員会報告

武川春季大会企画委員長より第106回大会(一橋大学)について説明があり、共通論題を「新しい社会政策の構想：20世紀的前提を問う」とし、10月14日、12月23日、に続き、3月8日に第3回打ち合わせ会を予定しているとの報告があった。またテーマ別分科会8、自由論題報告者数20人が紹介された。なお公募していた地域通貨の分科会は1年延期し、公募への応募者については自由論題で報告するようお願いしたとの説明があった。

### (5) 秋季大会企画委員会報告

上掛秋季大会企画委員長より、第107回大会(10月4日、5日下関市立大学)の共通論題を「社会政策学と賃金問題(仮題)」にする方向で検討しているとの報告があった。また第109回大会を大阪市立大学で行い、第111回大会は北海道、第113回大会は九州で行う予定であると紹介された。

### (6) 予算案の提案

従来学会予算案を当該年度の前の秋季大会にかけているが、本来は活動方針と一緒に提出すべきなので、春季大会時の総会に活動方針案と一緒に出すことにした。すでに2003年度予算案は第105回大会で承認を得ているので、新しい方式は2004年度予算から適用する。

### (7) 部会活動費について

部会活動費について議論を行い、部会活動費は専門部会、地域部会とも5万円を上限とするという案を中心に代表幹事が次回幹事会で提案を行うことにした。

### (8) 旅費規程の文言修正について

秋季大会時の臨時総会で承認された旅費規程について、総会で指摘された回数制限が年度あたりである点を挿入した規程が紹介された。

### (9) 学会賞選考委員会について

中川幹事より、4月始めに第二回選考委員会を開催するとの報告があった。

### (10) 選挙管理委員会の発足について

森代表幹事より、選挙管理委員会の発足に向けて準備を始めたいとの報告がなされた。

### (11) 選挙管理委員会の発足について

森代表幹事より、日本学術会議のあり方をめぐって議論がなされている件が紹介された(ニューズレター第3号参照)

### (12) 日本経済学会連合

岩田幹事より、日本経済学会連合の評議会に出席したとの報告があった。

### (13) 次回日程

次回幹事会を3月28日に開催することにした。

## 7. 専門部会報告

### 【ジェンダー部会】

ジェンダー部会では、104回大会で、非定型労働部会と共催で分科会を持った。102回大会に引き続き、共通論題と関わるテーマ設定(「派遣労働の今日的課題」)を行い、実りある議論が出来た。分科会に先立ち、公開で報告者打ち合わせ会を持ったことも分科会の成功に大きく寄与している。

また、104回大会当日、分科会会場で引き続き部会を開催した。出席者は少数であったが、106回大会の分科会でのテーマについて有益な話し合いを持つことが出来た点で成果があった。その後メイリング・リストで情報交換をしつつ分科会「ジェンダー・ケア労働・セクシュアリティ」の準備が進行中である。

さらに、11月27日には、ゲティンゲン大学のオストナー教授を迎え、成蹊大学文学部学会との共催で講演会(演題は“Welfare regimes, women's employment and the family”)を開催した。活発な議論が交わされ、その後懇親会で交流を深めた。

現在ジェンダー部会では、ジェンダー研究奨励賞の設置を検討中であり、106回大会前日に部会の開催を準備し

ている。その機会に部会としての研究会を開くことも検討中である。(竹内敬子記)

### 【労働史部会】

労働史部会は、2002年度春季大会で「市民運動・労働者運動・国家・歴史に見た国際比較」というテーマで分科会を開催した。田中洋子座長の下で、今井晋哉「19世紀中葉のハンブルクにおける市民層の運動、労働者運動、国家 - 公論形成への参加をめぐって」、石原俊時「1900年前後のストックホルムにおける市民的公共性の展開」という二つの報告がなされ、30名強の参加者による活発な討議が行われた。世話人は前期に引き続き、関口定一、田中洋子、市原博が務めたが、例年行っている労働史文献の合評会や来日中の外国人労働史研究者を招いての研究会は行うことができなかった。2003年度春季大会では、「小規模生産・家内労働の可能性：歴史的視点による再評価」というテーマで分科会を開催する。

(市原博記)

#### 【産業労働部会】

産業労働部会は2002年度春季大会で「日本の労使関係に何が問われているか 日本労使関係研究の課題」というテーマで分科会を開催した。分科会では鈴木玲「労使関係研究の今後の課題」、青山秀雄「賃金問題から」、福井祐介「コミュニテイ・ユニオンの取り組みから」の3本の報告がなされ、石田光男座長のもと活発な討論が行われた。世話人は橋元秀一が務めるとともに、今期より白井邦彦が加わった。下半期は2003年度分科会の企画につき随時打ち合わせを行い、2003年度春季大会で「変容する労働運動 イギリス、フランス」を開催することに決定し、12月に報告者等による事前打ち合わせを行うとともに、3月20日には事前の公開研究会を青山学院大で行う予定である。(白井邦彦記)

#### 【少子高齢部会】

少子高齢部会は、2002年度春季大会で「地域から見た介護労働と経営」というテーマで分科会を開催した。高田一夫座長の下で、照内八重子「高齢者介護施設における福祉経営と労働 関東地域の施設経営と福祉行政の事例を中心に」及び、森詩恵「ソーシャルワークの視点からみた介護保険制度の諸問題 日常生活の維持・自立支援を視野に入れた介護サービス提供に向けて」という二つの報告がなされ、参加者による活発な討議が行われた。

また、一橋大学を会場として研究会を2回開催した。7月13日の研究会では、林大樹が「北欧の介護事情 現地を訪ねて」と題する報告を行った。9月14日には、多摩地域において医療と福祉の事業者による連携協力の進め方についての学習活動を続けている多摩地域福祉推進ネットワークとの共催で研究会を開催し、林大樹「介護サービスの質と介護労働の関係の実証研究について」及び、木原勇(さわやか福祉財団)「神奈川県における市町村福祉計画の推進」という二つの報告がなされた。

2003年度春季大会では、「介護保険は地域福祉か」というテーマで分科会を開催する。(林大樹記)

#### 【社会保障部会】

昨年秋に、前任者の工藤恒夫先生から世話人を引き継いでくれるように依頼を受けたばかりで、正直言って、力不足の私には何をどのように進めたらよいのか暗中模索の状況にある。また専門部会の活性化に関しては、この間の時間の経過や社会情勢の変化もあり、部会に所属して下さっている会員諸氏の確認作業を初めとして、世話人としての任務を遂行するための基礎的な条件の整備が必要になっている。

社会保障部会は、春の大会における分科会の企画を中心に活動を行ってきた。昨年は「三年目を迎えた介護保険制度の検証」と題して、河合克義会員の座長の下で、里見賢治会員と伊藤周平会員に報告して頂き、多くの参加者を得ることができた。今春の大会においても分科会を企画し準備を進めているが、今回から事前報告会を開催して相互に意見交換を行い、充実した分科会となるように努力したい。(唐鎌直義記)

#### 【非定型労働部会】

昨年5月の104回大会にて、「派遣労働の今日的課題」をテーマに掲げてジェンダー部会との合同で分科会を開催した。当部会は1998年に発足して以来、例会を数回開いたが、2001年4月以降は開催していない。部会に所属する会員名簿もやや不明確なため、昨年11月にメイリング・リストをとおして改めて部会会員の登録を呼びかけた。

本年5月の大会会場で部会会員に集まっていたき今後の活動計画を相談することにしたい。

なお、当部会に入会希望の方は「氏名、所属、郵便番号、住所、電話、FAX、E-mail」などを下記あてにご連絡ください。渡邊幸良 / 〒025-8501 岩手県花巻市下根子450-3 富士大学 経済学部 / TEL : 0198-23-6221 FAX : 0198-23-5818 / E-mail : yukiyoshi@fujii-u.ac.jp

(伍賀一道記)

## 8. 地域部会報告

#### 【北海道部会】

今年度は北海道部会・研究会を開きませんでした。次年度は頑張ります。(木村保茂記)

#### 【東北部会】

今年度の東北地域部会は、事務局責任者(佐藤)の不手際のため、開催することのないまま今日に至りました。(佐藤眞記)

#### 【関東部会】

関東部会は、2002年7月6日(土)14時~17時まで、立教大学において、以下のように関東部会研究会を開催した。

1. 「地方公務員の昇進管理」前浦穂高(東京大学大学院)
  2. 「戦後労働調査史」山本潔(東京大学名誉教授)
- これらの報告に対して、約20名の出席者により活発な質疑応答が行われた。(井上雅雄記)

#### 【東海部会】

東海部会の第5回研究会を11月30日(土曜日)に中京大

学名古屋キャンパスにおいて開催いたしました。「労働災害・職業病」に関する2本の報告のほか、例年通り大学院生の報告をもって研究会を構成いたしました。報告者と報告のテーマは、以下の通りです。

1. 「過労死・過労自殺と労災認定 愛知健康センターの取り組み」 近森泰彦(愛知健康センター)
2. 「労災・職業病統計と職業別死亡統計の国際比較」 藤岡光夫(静岡大学)
3. 「変わる賃金制度、成果主義への転換 財界の政策を中心に」 杉山直(中京大学大学院)

参加者は、15名でした。なお、研究会は、例年12月の最初の土曜日に開いてきましたが、他の研究会との競合などから今回より11月の最後の土曜日に開催することとなりました。また、研究会の終了後、東海部会運営委員の補充について検討し、石田好江会員(愛知淑徳大学)に運営委員会に加わっていただくことになりました。

(三富紀敬記)

#### 【関西部会】

日時 2002年12月7日(土)10時15分~16時30分  
場所 大阪市立大学文化交流センター

出席者 42名

< 研究報告 >

午前の部 座長 浪江 巖 (立命館大)

1. 「イギリスにおける脱工業化と労働市場の変化 プレ  
ア政権における雇用政策との関連に限定して」

伊藤太一 (立命館大大学院)

2. 「企業による家族支援の現状と問題点」

中村艶子 (同志社大)

午後の部 座長 久本 憲夫 (京都大)

特集「日本社会政策研究の課題と展望」

1. 方法論 池田 信 (関西学院大)

2. 労使関係 石田光男 (同志社大)

3. 社会保障 玉井金五 (大阪市大)

テーマ設定に大きな関心が持たれたのか、関西部会史  
上はじめての参加人数40名突破となる記念すべき会とな  
った。質疑応答も午前中から活発になされ、非常に充実  
した1日となった。

< 総会 >

1. 今後の全国大会開催日程等について

2. 次回関西部会の日程等について

3. その他

(玉井金五記)

#### 【中国四国部会】

2002年度の中国四国部会研究会は、9月21日(土)山口グ  
ランドホテルで開催された。報告者とテーマは次の通り。

1. 「介護保険制度におけるケアマネージャーの役割 準  
労働市場論を基礎として」

武田留美子 (広島大学大学院)

2. 「高齢者対応型サービスの動向と高齢者のサービス意  
識 高知県内外の調査をふまえて」

田中きよむ (高知大学)

3. 「介護保険の『自立支援』 痴呆老人の場合」

大西秀典 (尾道大学)

4. 「年次有給休暇制度と福祉文化 仏人民戦線期の政策  
経験が持つ意味」

向井喜典 (大阪経済法科大学)

参加者は関西からの参加もあって12名。懇親会でも自  
己紹介時に議論が続いた。なお、2003年度の同研究会は、  
尾道で7月26日(土)と決めた。報告希望者はお知らせ  
下さい。(山本興治記)

#### 【九州部会】

< 第75回研究会 >

日時：2002年9月14日(土) 13時から

会場：九州国際大学一号館大会議室

出席者：16名

(報告)

1. 「アメリカ大恐慌期における労働者と労働組合」

国府俊一郎 (九州大学大学院)

2. 「第二次大戦後初期大企業労働者のキャリア 京浜工  
業地帯調査(従業員個人調査再分析(その一))」

平木真朗 (西南学院大学)

3. 「筑後川における水資源開発と地域社会 - 開発論理の  
転変と社会の対応など」

蔦川正義 (佐賀大学)

< 第76回研究会 >

日時：2003年2月1日(土)13時半から

会場：佐賀大学経済学部 第一会議室

出席者：20名

(報告)

1. 「近代比較医療史のパーспекティブ 19世紀末から  
20世紀初における日米英三国の医療システムの構造  
変化」

猪飼周平 (佐賀大学)

2. 「ワークハウス訪問協会について Journal of the  
Workhouse Visiting Societyを中心として」

吉尾清 (長崎県立大学)

(富田義典記)

## 9. 部会活動費について

3月の幹事会で専門部会や地域部会の活動費について  
以下のように指針を決めました。部会責任者に於かれまし  
てはこれを参考にし部会活動を進められますようお願い  
申し上げます。

(1)部会活動費は専門部会、地域部会とも年度内 5万円を  
上限とする

(2)部会活動費には非会員の旅費を含める。非会員の旅費  
には、学会旅費規程を準用する。また部会活動費には飲食

代を含めない。

(3)支出項目について疑問点がある場合には当該部会と本  
部で折衝する。

(4)部会活動費を申請できる専門部会は、次の要件を満た  
していなければならない。年1回部会活動報告を本部に  
行っている(ニューズレター掲載)、 会員が部会に自由に  
参加できるようにしている、 春季、秋季大会を通して少  
なくとも年に一度分科会を開いている、 メンバーの概数  
を本部に連絡している。

## 10. 新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者
<b>&lt; 1月25日の幹事会で承認(14名) &gt;</b>			
野口定久	日本福祉大学社会福祉学部	社会保障・社会福祉	森建資 武川正吾
石井聡	名古屋大学大学院経済学研究科・院生	労働史・労働運動史	森建資 福澤直樹
岡村東洋光	九州産業大経済学部	社会保障・社会福祉	中村守 富田義典
加藤道也		労使関係・労働経済	松村高夫 中川清
石川暁生	愛知労働問題研究所	社会保障・社会福祉	猿田正機 桜井善行
高橋聡	岩手県立大社会福祉学部	教育制度・政策	森建資 武川正吾
尾崎寛直	東京大学大学院総合文化研究科・院生	社会保障・社会福祉	森建資 武川正吾
人見論典	筑波大学人文・数理等教育研究支援室	労働史・労働運動史	田中洋子 山田和代

荻山正浩 千葉大学法経学部  
 小島貴久香 ロンドン大学 LSE 社会政策学部・院生  
 春日キスヨ 安田女子大文学部  
 ウー・ヨー 早稲田大学大学院経済学研究科・院生  
 石原俊時 東京大学大学院経済学研究科  
 大場陽子 立命館大学産業社会学部

労働史・労働運動史  
 ジェンダー・女性  
 ジェンダー・女性  
 社会保障・社会福祉  
 労働史・労働運動史  
 ジェンダー・女性

森建資 小野塚知二  
 岡部卓 山森亮  
 大沢真理 室住眞麻子  
 牛丸聡 清水英彦  
 佐口和郎 森建資  
 芝田英昭 中川順子

<3月28日の幹事会で承認(11名)>

高嶋裕子 金沢大学大学院経済学研究科・院生  
 松葉口玲子 岩手大学教育学部  
 中山弘子 千葉県舟橋保健所  
 横溝幸徳 大阪市立大学大学院経済学研究科・院生  
 藤澤由和 国立保健医療科学院政策科学部  
 橋本美由紀 法政大学大学院社会科学部研究科・院生  
 金子良事 東京大学大学院経済学研究科・院生  
 萩原康一 中央大学大学院経済学研究科・院生  
 高橋桂子 新潟大学教育人間学部  
 杉田あけみ 千葉経済大学短期大学部  
 廣川嘉裕 早稲田大学大学院政治学研究科・院生

社会保障・社会福祉  
 ジェンダー・女性  
 社会保障・社会福祉  
 社会保障・社会福祉  
 医療制度  
 ジェンダー・女性  
 労働史・労働運動史  
 社会保障・社会福祉  
 労使関係・労働経済  
 ジェンダー・女性  
 社会保障・社会福祉

横山寿一 伍賀一道  
 伊藤セツ 天野寛子  
 森建資 佐口和郎  
 玉井金五 大西祥恵  
 三重野卓 近藤克則  
 伊藤陽一 福島利夫  
 森建資 佐口和郎  
 松丸和夫 森建資  
 森建資 佐口和郎  
 伊藤セツ 伊藤純  
 松溪憲雄 藤井浩司

## 11. 物故者、退会者リスト

【2002年度中にご逝去された会員・名誉会員】

2002年度中に次の会員及び名誉会員の方がご逝去されました。学会へのご貢献に心より感謝し、謹んで哀悼の意を表します(本部掌握分のみ、敬称略)

藤本武 細迫朝夫 隅谷三喜男 三好宏一

【2002年度中に退会された会員】

次の方々が2002年度中に退会されました(敬称略)  
 工藤剛治(千葉商科大学) 後藤實(労働経済調査研究所)  
 辛島禮吉(東京市政調査会) 酒徳清、関口功(新潟経営大学)、  
 後藤新(明治大学大学院)、西本鴻一(桜美林大学)、  
 川端良子、宮崎三四郎(大阪学院大学)、泉俊衛(日本福祉大学)、  
 藤原壮介(今治明德短期大学)、大木栄一(JIL)、  
 三好正巳(立命館大学)、仲村優一(日本社会事業大学)

## 12. 本部よりのお知らせ

### 1. ホームページを見てください

学会の重要なニュースは、このニューズレターに載せるようにしていますが、緊急のご案内などにはあまり向いておりません。本部としてもニュースは出来るだけホームページに掲載するようにしています。二村会員のご尽力で本学会のホームページは充実していると思います。会員の皆様に於かれましても、学会のホームページを積極的にご利用くださるようお願い申し上げます。

なお、昨年秋以来、幹事会では国際交流の推進や国際的な情報発信が議論されています。その一環として英文のホームページを作成することを検討中です。皆様のお知恵を拝借できたら幸いです。

### 2. 会費の納入のお願い

2002年度の決算の作業を進めておりますが、会費の納入率が少し下がっているのが気がかりです。会費をまだ納めておられない会員に於かれましても、なにとぞ会費納入

の件、よろしくようお願い申し上げます。

### 3. 幹事の交代

2002年5月25日の総会で幹事に就任されました中央大学の鷺谷徹会員が、長期の在外研究のために幹事を辞任されました。社会政策学会会則第13条にしたがって早稲田大学の森真紀会員に鷺谷前幹事の後任になっていただきましたので、お知らせいたします。任期は次の改選が行われる総会までです。

### 4. 就職情報掲載のお知らせ

会員の皆様の所属されている大学、研究機関などで教員、研究者の採用人事の公募があるときには、なにとぞ学会のホームページに掲載されますようお願い申し上げます。ホームページにあります二村会員のアドレスまでご連絡ください。